

インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ)	フリガナ)	フリガナ)
國學院大學 (コクガクインダイガク)	経済学部 (ケイザイガクブ)	根岸ゼミ (ネギシゼミ)

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) エヌエスエムティー	フリガナ) ハギワラ ヨウイチロウ	5	無	
NSMT	萩原 耀一郎			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

パワーポイント、和紙のバッグ、小川和紙

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ (発表タイトル)

伝統×世界 = 和紙の魅力の再発見

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

この研究は現在の製紙産業及び和紙産業、海外の紙作りについて特徴及び現状をまとめる。そのうえで和紙産業で有名な埼玉県小川町の現状に触れ、海外の紙漉き職人、及び海外の芸術家を小川町に呼び込み、小川町を国際的な紙と芸術の町にする可能性を考察する。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

紙は私たちの日常生活において、常に身の回りに存在しており、生活に必要な不可欠なものである。

製紙産業全体の生産量の推移を見ると、2000年の1903万7千トンピークに年々減少し、2018年には1400万8千トンにまで減少した。また、製紙産業の需要も同様に2000年から2018年にかけて減少している。なかでも和紙は洋紙に比べ単価が高く繊維が長いいため機械による大量生産が難しく需要は減っており、衰退産業と言われ続け、消費は年々減少している。また和紙は家内工業的な側面が強くなかなか特定の卸先以外の新規客を取り込むことが少ない。さらに和紙の原材料となる楮は安い輸入が増えたことも重なり1997年以降生産量が減少しており需要が減少している状況である。

また小川町における人口の現状については平成 10 年以降減少傾向にある。これは日本の問題である少子高齢化が進んだだけではなく、過疎化も進んでいる。小川町の人口は減っているにも関わらず、世帯数は増加している。これは一人暮らしをする人が増えたことに起因する。これは人口減少の観点から考えると自然な流れではあるものの高齢者の一人暮らしが増加することは町に家族で住む人が少なくなっていることを意味する。これまでは都心に出勤する人も多かったが川越の発展によってより都心の近くに住む人が増えた。現在小川町は空き家が 200 件以上あり、そのうち約 90 件は商業地域にある。このことから町の産業もあまり活性化されずシャッター商店街になっていることが分かった。小川町の主な施策・取り組みとして町の積極的な発信、和紙産業の活性化、地域の見守り・支えあい体制の充実の 3 観点がある。町の積極的な発信では、地域観光資源を活かしたイベント等の開催やキャラクターなどの活用、地域資源の魅力アップの推進を行っている。和紙産業の活性化では細川紙（手漉き和紙）の後継者育成支援、和紙を使用した商品開発を行っている。地域の見守り・支えあい体制の充実では移動困難者に対する支援対策の充実、町民、社会福祉協議会、町、ボランティア、NPO 等が連携できる組織とコーディネーターの育成を行っている。

ターゲットとなる外国人は増加傾向である。訪日外国人、及び外国人労働者の数は年々増加傾向にある。訪日外国人が多いということは日本に関心を持っている外国人が増加したと考えることができる。日本に関心を持つきっかけとしてアジア方面ではアニメが人気になっており、アニメをきっかけに日本に興味を持つ人が多い。欧州の人は日本の文化に興味を示す人が他のエリアの人よりも多い。

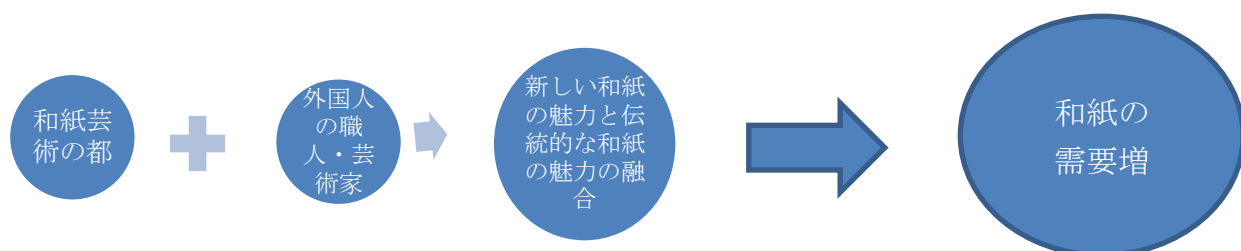
3. 研究テーマの課題

研究テーマの課題として挙げられるのは和紙産業の衰退である。これまで和紙は和紙としての一般的な用途、主に記録証書、折り紙、便箋、障子などに用いられてきた。しかしながら現在は記録証書以外では需要が減っている。折り紙は少子化の影響もあり、需要が減っていると考えられる。便箋はデジタルデバイスの台頭によるペーパーレスの影響を受けて需要が減っていると考えられる。障子は現在持ち家の人気さが下がり、マンションの人気さが上昇していることで障子を家庭で導入する機会が減ったと考えられる。このような現状に対し、和紙も様々な工夫を行ってきた。具体例としては和紙の耐久性を活かして傘を作成することであったり、エコバッグを作成した。しかしこれらの作品は普通に作られた傘に比べてかなり高価であるうえに、一般的なエコバッグや傘の代替品に過ぎないという課題がある。今後の課題として、代替品ではなく和紙の特徴である通気性の良さ、繊維が長いことによる丈夫さ、長持ちし、循環型の資源として環境にやさしいというところを抑えた和紙だからこそできるものを作成する必要があると考える。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

そこで提案するのは外国人を誘致し、小川町をアートの町にするという解決策である。例えば海外の紙を使った文化ではマーブル紙などの文化が 17 世紀からある。

小川町は古くから和紙産業で有名な都市であるので国際的な紙を用いた芸術の町にすることで改めて和紙の良さを認識するだけでなく、外国の紙文化を取り入れ海外の芸術家を招聘することで新しい和紙の魅力を生み出すことができると考える。



この提案では小川町の商業地区における空き家バンク制度を利用した外国人に利用してもらい、住宅及びアトリエの補助を行う。外国人によって旧来の伝統的な和紙の使い方だけではなく、全く新しい使い方を提案してもらうことでこれまでの伝統的な和紙のイメージだけではなく現代的な和紙の魅力を SNS 及びメディアを中心に発信する。そのようにすることで多くの世代に和紙の良さを認識し、関心を持ってもらうことで和紙の需要を増やし、最終的には和紙産業が再興すると考える。外国人の芸術家は主に海外で紙に関連した芸術を学んでいる芸術学校の学生を呼び込む。そのことで和紙職人の高齢化を防ぎ、芸術学校としても定期

的な就職先を確保することが見込まれ生徒のキャリア教育の充実に繋がるのではないかと考える。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

ユネスコ世界無形文化遺産に登録された手漉き和紙の細川紙の作成地である埼玉県小川町にフィールドワークを5回行った。埼玉県小川町は和紙で有名な土地である。小川町で作られた和紙は「小川和紙」と呼ばれる。小川和紙は大きく分けて2種類あり、手漉き和紙と機械漉き和紙がある。さらに手漉き和紙も製法によって2つに分類され薄く作る流し漉き、厚く作るため漉きがある。ユネスコの世界無形文化遺産に選ばれたのは小川和紙の中でも手漉きかつ流し漉きの技術で作られた最高級品の「細川紙」を作る技術である。私たちは小川町のにぎわい創出課の方にお話を伺うことができた。にぎわい創出課は産業の誘致などを行う町役場の部署である。小川町にフィールドワークを行って分かったことは和紙産業の構造と厳しい現状である。和紙産業は家内工業的な側面強いということが分かった。家内工業的な側面が強いことで資金の状況や取引先の増減などが外部に伝わりにくいという側面を持っている。さらに昔から特定の卸先に卸していることが多く、新しい職人が生まれても販売先を自分で探さなければならないという難しさがある。現在小川町では3人の和紙職人の育成を行っており、2019年9月に育成プログラムが終了し独立する。しかし独立してもこれから販売先を探さなければならない。

和紙産業は現在安い洋紙の輸入やデジタルデバイスの普及によるペーパーレスの流れを受けて需要が減少している。需要の減少は和紙職人の減少だけではなく和紙を作るために必要な原材料や和紙を漉くための竹簾を編む職人も不足している状態にある。特に原材料の不足は大きな問題となっており、小川和紙の中でも最高級品である細川氏は原材料である楮とトロアオイが国産のもでなければならない。しかしながらトロアオイを生産し、小川和紙にも多く使われてきた茨城県小美玉市がトロアオイの生産を2020年から行わないという方針が示されている。一方の楮もタイなど安い外国産の楮が輸入されたことによって国内の背産量が減っている現状にある。そのような現状を受けて小川町では楮の栽培を和紙職人が行っている。和紙職人が原材料を生産している。それによって和紙を生産する時間が減ることによって生産額が減少することが考えられる。

ユネスコの世界無形文化遺産に石州半紙、本美濃紙、細川紙を漉く技術が登録されたことは町の和紙産業を発信するための大きな影響力を持った。その反面負の側面もある。ユネスコの世界無形文化遺産に登録されることによって世界の人々に対し、その文化を守ることを義務づけられることで和紙職人の人としてはブランド価値が生まれそれによって値段が高騰し売れなくなっているという現状もある。

空き家バンク制度については現在空き家バンクを使える条件が小川町では指定されている。具体的には1、日本標準産業分類（平成25年総務省告示第405号）で定める産業のうち中分類57条から60までに定める小売業、中分類76に定める飲食店（酒場、ビヤホール、バー、キャバレー及びナイトクラブを除く）、中分類77に定める持ち帰り、配達飲食サービス産業に分類される店舗と定められており、芸術家のアトリエはこの条件に当てはまることができない。しかし、2つ目の条件として小川町駅周辺の商業地域の商店街の集客やイメージアップに有用でまちづくりに寄与すると町長が認めた事業には空き家バンクによる補助金制度を受けることができる。

6. 結果や今後の取り組み

今後の取り組みとしては、小川町のバックアップと外国人の紙職人、及び芸術家を日本に移住させる必要がある。前述の通り空き家バンクをこの提案で活用するためには町長を含めた町のバックアップが必要である。今後アトリエを制作するために必要な資金の見積もりと具体的にどここの空き家を活用するのかの絞り込みが今後の課題になると考える。また海外の芸術大学に対してどのようなアプローチで芸術家を招くのか、具体的な学校の選定やリクルーティング方法は今後検討しなければならない課題であると考えられる。今後の取り組みとしては具体的な予算と外国人を招く人数の長期的な計画を作成し、町長に提案を行う。

7. 参考文献

『未来の年表 人口減少日本でこれから起こること』河合雅司 講談社 2018年

<http://www.mlit.go.jp/common/001123470.pdf>

最終閲覧日 2019年9月24日

https://www.jstage.jst.go.jp/article/cpij1/38/0/38_0_14/_pdf

「芸術家の居住地選択および居住環境評価に関する基礎調査」2019年9月24日

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/tyousakai/senryaku_vision/dai3/sankou1.pdf 「クールジャパン

の再生産のための外国人意識調査（概要）」特定非営利法人 映像産業振興機構（VIPO）2019年9月24日

<https://www.jpa.gr.jp/states/paper/index.html#topic01>

日本製紙連合会 | 製紙産業の現状 最終閲覧日 2019年9月24日

<http://www.jsapa.or.jp/tokusan/tokusanchousa/nousakumotuchousah26.pdf>

「薬物及び和紙原料等に関する資料」公益財団法人日本特産農産物協会

（平成29年2月）（最終閲覧日9月22日）

http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/bunka_gyosei/pdf/h26katsudo_jirei.pdf

「社会課題の解決に貢献する文化芸術活動の事例に関する調査研究報告書」

最終閲覧日 2019年9月25日

「小川町空き店舗等活用事業補助金交付要綱」平成29年3月30日 告示第77号

「小川町 まち・ひと・しごと創生総合戦略」平成27年 平成28年3月改定

「ユネスコ世界無形文化遺産 和紙：日本の手漉き和紙技術」

<https://news.mynavi.jp/article/20121002-a032/>

マイナビニュース「岐阜県美濃市の歴史ある町並みを、美濃和紙で包まれたやさしい灯りが照らす」最終閲覧日 2019年9月25日

<https://www.kanazawa21.jp/project.php>

金沢21世紀美術館ホームページ 最終閲覧日 2019年9月25日

<https://www.akariart.jp/>

美濃和紙あかりアート展 最終閲覧日 2019年9月25日

<https://setouchi-artfest.jp/artworks-artists/artworks/shodoshima/48.html>

小豆島 | 瀬戸内国際芸術祭 迷路のまち～変幻自在の路地空間～ 最終閲覧日 2019年9月25日

<https://setouchi-artfest.jp/>

瀬戸内国際芸術祭2019 最終閲覧日 2019年9月25日

『紙はよみがえる 日本文化と紙のリサイクル』岡田英三郎著 雄山閣 2005年

『和紙のすばらしさ 日本・韓国・中国への製紙行脚』ダート・ハンター著、久米康生訳 勉誠出版 2009

『多文化時代の観光学 フィールドワークからのアプローチ』高山陽子編著 ミネルヴァ書房 2017

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員（ビジネスパーソン・大学教員）の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経BPマーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会（プレゼン局）にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ **ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください**